

地域医療連携室 NEWS

平成 28 年 5 発行 第 54 号
社会医療法人札幌清田病院 地域医療連携室

第 54 回地域健康セミナーを実施しました！

「鼠径ヘルニア（脱腸）について～足の付け根が腫れていませんか？～」

平成 28 年 3 月 16 日(水) 当院 2 階会議室にて外科医師 矢野 智之 を講師として、
地域健康セミナーを開催しました。講演のダイジェストをお伝えします★



今回、お話しさせていただきました『鼠径(そけい)ヘルニア』は“脱腸”ともいわれていて、お腹にある小腸などの臓器が、大腿の付け根やや上方(そけい部)から皮膚の下に出てくる病気です。立った状態でお腹に力を入れた時に、そけい部が球状に飛び出していたら、そけいヘルニアの可能性ががあります。日本では年間 15 万人、アメリカでは年間 80 万人の患者がいて男性が 80%以上を占めます。

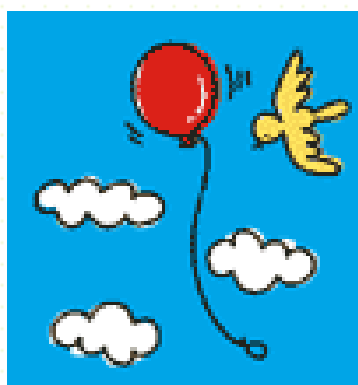
立ち仕事など腹圧のかかる仕事に従事している人、喫煙者など咳が多い人、高齢、痩せている人などが要注意といわれています。ヘルニアの突出部をヘルニア嚢(のう)といいます。ここに小腸や、女性の場合は卵巣や卵管などがはまり込んで抜けなくなることがあり

ます。これを嵌頓(かんとん)といいます。嵌頓すると、そけい部の突出のみならず、痛み、圧痛(押すと痛くなる所見)を認めます。小腸が挟まった場合、数時間で嘔気、嘔吐、腹満が出現して腸閉塞となり、放置すると腸穿孔から腹膜炎に至ることがあるので早めの受診が必要です。

ヘルニアの治療は手術のみです。手術は鼠径部を 4-5cm 切開して行う前方アプローチ法と、小さな孔を 2-3 か所あけて行う腹腔鏡下ヘルニア手術があります。前方アプローチ法は手術費用が安いことと、心臓や肺に疾患を抱えている方には負担の少ない手術となります。腹腔鏡下ヘルニア手術は創が極めて小さく痛みが少なく、整容性に優れているのと、反対側のヘルニアが存在した場合に、一回の手術で同時に治療できる長所があります。治療に関すること、心配なことがございましたら、外科にご相談ください。



外科医師 矢野 智之



平成 28 年 5 月発行 第 54 号

〒004-0831 札幌市清田区真栄 1 条 1 丁目 1-1 地域医療連携室

電話 011-883-6111 (代表) 011-883-6114 (直通)

発行責任者：社会医療法人札幌清田病院 地域医療連携室室長 井原康二 (副院長)